



The Royal Photographic Society

Patron: Her Majesty The Queen. Incorporated by Royal Charter

NEWS LETTER

第 28 号 2014/06/10

発行所 英国王立写真協会・日本支部
〒107-0052
東京都港区赤坂9丁目1番7号
赤坂レジデンシャルホテル482号
電話：03-6721-1590
FAX：03-6721-1590
email: rps-japan@nifty.com
発行人 三宅善夫 編集人 川村賢一

<http://www.rps-japan.org>

Feel British !



第12回日本支部写真展開催

駐日英国大使館とのコラボ実現

2014年2月28日～3月6日まで、東京銀座のフレームマン エキジビションサロンにて年度写真展を開催。

今回は、駐日英国大使館で近年発見されたガラスネガの記録写真から20点を提供して頂き、今後予定の大きな写真展に先駆けて、支部写真展とのコラボという形が実現した。

企画実現のため、三宅理事長および渉外担当の日比谷会員が大使館側の担当者たちと会合を重ねた。

提供された写真は、すべて大判のコンタクトプリントで、

関東大震災で被災した大使館の復興時の記録写真を中心とするもの。写っている大八車などが歴史を偲ばせる。貴重なガラスネガということで、扱いに慣れている日本カメラ博物館にプリントをお願いした。

今年は、当初様々な事情で、常連会員の出展数が少なく、急遽追加募集をかけて充実した写真展となった。昨年と比べ入場者数はやや下回ったが、大使館とのコラボにより、新たなステップを踏み出すことが出来た意味は大きい。

第12回リレートーク 「写真大好き！」

昨年12月14日、東京六本木の「霞会館」にて開催。
今回は、田村暉昭理事に独自の写真観をお話しいたいただき、東京下町の歯切れのよい、ユーモアを交えたトークと多彩なタレントを披露され、楽しい会となった。

1933年東京生まれ。大阪の名料亭で修業後、老舗「つきじ田村」で勤務、2代目オーナー。現在、料理講師、和食を紹介する活動など。外国特派員協会でお弁当を披露し、絶賛されるなど、マスコミなどで活躍中。若い頃より写真や動画を楽しみ、小冊子などにも活用。様々な機材を駆使して、独創的な撮影技術の開発にも余念が無い。



田村暉昭

お陰様で今年80歳になりました。入会してもうずいぶん経ちますが、いつも英国大使館の前を通ると、設立レセプションのパーティーを思い出します。

作品をつくることは、あまり得意ではないので、これまで写真展へは参加してこなかったのですが、写真を撮ることは大好きです。

父は福井県の小浜の出身ですが、幼少の頃父親を亡くし、魚や料理法を教わるために行った京都の修業先で、料理が好きになり、そこのご主人から料理長として迎えられた。その後、東京に移り、築地の近くの店で料理長として仕事を始めていました。その頃、私は小学生でしたが、当時非常に高価であったローライとオリンパスのカメラがあり、それがカメラとの出会いでした。

中学に上がると、写真部の部長も務めました。海苔の缶でプリンターを作った自由研究で唯一「秀」をもらったのが自慢です。父がまたライカ(たぶんM3)を買い込んできたのですが、当時はまだ1ドルが360円の時代で、税関では査定に手間取り、係官が右往左往していたそうです。

学生時代は、学生生活を始め、様々な写真を撮り、それらをスライドで発表したり、写真集にまとめたりして大変喜ばれました。

今から30年くらい前に、今のビルに建て替えました。当初、広間の真ん中に間仕切りの欄間があったのですが、エルモの16mm映写機で、スクリーンに投影したいと思い、設計士に頼みました。普通の広間ですと天井が低いのですが、結果として、天井が高くなり、今でも良かったと思います。

当時は公会堂で映写するような映写機でしたが、今ではお蔵入りしてしまって残念です。

総額1000万円くらいぎ込んで、そんなものを作りましたが、「その金でお椀を買っておけばな、一生使えたのに...!」と、父が元気だった頃には、大変叱られました。

そんなことで、その当時、ハッセルも買いましたし、電動で動くブローニーの長い接写レンズや、いろいろな16mmの機材、プロ16、アルフレックスなどを買いに、足繁くカメラ屋に通い、大変お金を無くしました。

16mmでは、春夏秋冬の料理番組も作りました。

今では、家内におんぶと言うことで、ときどきねだってい



写真上： Julia Longbottom 駐日英国公使と三宅理事長
写真下：大使館提供の写真

かねてより懸案だった、女王の肖像写真の提供も受け、また「About Us」(RPSとは何かを視覚的に紹介)のパネル展示も充実してより体裁が整った。

写真展のテーマは、ここ数年の「feel British!」を継続し、日本の見た英国、日本で見つけた英国、今も生きている英国、英国が守ってきたものや、英国のイメージを追求する。

支部展のレポートは、三宅理事から本部に送られ、本部ジャーナル5月号同封のMembership Mattersに紹介された。

東京展終了後、今年もそのまま長崎歴史博物館に送られ、5月24日より巡回展を開催。多数の来場者で賑わう長崎展は、恒例となりつつある。

先日開催の理事会にて、今後もこのテーマ「feel British!」を追求する方針が決定。写真展の独自性、差別化の観点からも意味のあるテーマで、会員それぞれの感性、テーマの掘り起こしてさらなる発展を期待したい。



ますが、もう少し始末すればよかったと言いながら、新聞雑誌で見たりすると、どうしても買ってしまいます。今、いったい何台あるか分かりません。

つい先月も、ライカで見つけたものを買ってしまいました。(「Hero 3」という超小型ビデオカメラを紹介。)

今までは、動画を二コンで撮っていたのですが、写真と動画を切り替えるために、いちいち回さなければなりません。孫の結婚式を撮ったときにも、教会に行き、いいところで動画にならず、写真のまま動きませんでした。



今年、築地の「波除神社」の祭りの総代となり、その役を務めながら撮影しました。

失敗もありますが、「Hero 3」で撮ったものを見ますと、赤いボタンを押すだけで動画が撮れますので、大変便利です。

大変小型で、ヘルメットに着けたり、水中でも撮れます。でも、買うときにはいつも2台買ってしまっているので、だんだん資金がなくなって残念です。

携帯できるスピーカーとか、何でもこれは便利だと思うので、すぐ買ってしまおうと、とてもお金が足りません。

また、カメラを持ち歩くときのケースを自作していて、東急ハンズで皮を買ってきて、瞬間接着剤で接着して作ります。用途に応じて、特製のケースをいくつも作っています。

(様々な手作りのケースを披露。)

修行から戻った19の若い頃から、行く先々でスケッチや記念のものを貼り込んで、書きためた冊子が今ではもう150冊くらいあります。(持参の厚い朱印帳数冊を紹介。)私は、お酒が飲めませんから、デザートを食べた後、これに水彩で描きます。吉兆のご主人からいただいた葉書なども、大切に貼り込んでいます。いつ見てもその当時のことをいろいろ思い出します。

今は3代目に料理場を任せただけで、7階に住んでいます。何にも専務ということで、絵を描くことが日々の楽しみとなっています。越前和紙を包丁で適当な大きさに切って、それに四季の絵を添えて、ランチョンマットとしておもてなししています。今は、もう携帯の時代ですが、名刺をいただいたときには、これに文字を入れてお送りすると、たいいていシビれていただけます。

柿をいただいたときは柿を、リンゴいただいたときはリンゴ、サクランボいただいたときはサクランボを、正月には凧を描きます。カブの絵は株やってる人には喜ばれるんです。富士山が世界遺産になったので、お祝いのときには富士山を描いて差し上げます。(支部事務所の富士山も田村会員からの寄贈。)絵は、修行から帰った若い頃から描いていますが、最近は料理もあまりやらず、朝起きたら絵を描きたくてしまいます。今日は、せっかく持ってきたので、皆さんに差し上げます。

カメラの進歩も凄いもので、そのたびに何かと買っていますが、ボタンひとつで動画が撮れるようになったのはとても便利です。パノラマが撮れるのも面白いです。

ここから築地の「波除神社」の祭りを撮った動画を見ていただきます。(ここで10分間、動画投影。)



祭りの総代が10人くらいいるのですが、袴をはいていると天下御免で、どんな位置からでも写真を撮れます。おかげで、普通は撮れないようなとてもよいアングルから撮ることが出来ました。いい位置にトラックがあったので、ちょっと乗せてくれと言えば、どうぞどうぞと撮らせてくれました。(祭り写真がライフワークの三宅理事長から、カメラ位置のよさに賞賛のコメント。)

王立写真協会に入会した当時のことは、もう忘れてしまったのですが、ライカのクラブなどには、経済的にも余裕のある人が多く、RPSのネームバリューに興味を持つ人もいると思いますので、パンフ配布もよいのではと思っています。

「Hero 3」をスチルカメラのホットシューに取り付け、動画と写真が同時に撮れる独創的な機材を愛用。



最後に、一代目と共著の「料理の理」と、心温まる和紙水彩画が参加者全員にプレゼントされ、盛会の内に終了。



林 喜一 写真展 訪問

「癒やしの国 ミャンマー」

2013年11月8日～21日

東京新宿 Epsite Gallery



森 誠子 写真展 訪問

「photo たび sketch」

part 1 2014年1月17日～23日
東京銀座 フレームマン



part 2 2014年5月23日～6月5日
東京新宿 富士フォトギャラリー



(編集後記)

英国大使館とのコラボは、RPSJとして新たなステップとなったが、日英協会との関連などで、英国在住25年という通訳の女性や多くの外国人、元英国大使館に住み込んでいた武官付運転手、読売新聞の記者など、これまでになく大変多様な方々とお会い出来、写真展はまさに世界と繋がる窓口だと感じた。これからも、繋がりを広げて行きたい。

(川村)